

発表演題：インプラントを適正埋入位置に配置するための手技の一考察

著者名：月岡庸之

抄録：

目的

インプラント施術時にマイクロスコープを用いて、その埋入深度の確認を行い インプラント修復後、X線検査にて予後を観察した。

概要

インプラントの埋入深度は、その予後において周囲骨組織のみならず歯周組織に対しても影響を及ぼす。またインプラントデザインの違いによっても理想的埋入深度は異なる。今回ティッシュレベルとボーンレベルの異なる形状のインプラントを用いて1回法、2回法、フラップレス、抜歯窩即時、のケースにおいてマイクロスコープを用いて埋入を行い、その埋入深度を、従来肉眼では困難であったステント、CEJ、辺縁骨との正確な位置関係を確認しながら施行した。

結果

1回法、2回法、フラップレス、抜歯窩即時のすべてのケースにおいて術後臨床的に問題なく推移した。またティッシュレベルとボーンレベルの両者に差は認められなかった、X線検査にてインプラント周囲骨に異常な吸収像は認められなかった。

考察及び結論

マイクロスコープを使用するとステントとの正確な位置関係が確認できることのみならず、抜歯窩辺縁骨の確認も可能となり、理想的な埋入深度コントロールが可能となる。術前の詳細な当該部位の診査診断と治療計画が行われれば有効な手段と考えられる。今後の更なる予後観察が不可欠である。